

平成22年度 功 勞 賞 受 賞 者

(市町村体育協会推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
1	きささぶろうべい 岸 三郎兵衛	平成 9年 5月～22年 3月 金山町体育協会 会長	金山町 体育協会	13年間の永きにわたって、金山町体育協会会長として当協会発展のため尽力し、町全体の社会体育振興に大いに寄与した。平成14年の県内2番目となる総合型地域スポーツクラブ「金山健康ふれあいスポーツクラブ」設立にあたっては、先頭に立ってリーダーシップを発揮し、スポーツを通して町民の生きがいがづくり、地域づくりに貢献した。町民の生涯スポーツ振興に尽くした功績は誠に大きい。
2	よした けんいち 吉田 憲一	平成 6年 4月～22年 3月 置賜地区柔道連盟 副会長 平成 7年 4月～13年 3月 高島町体育協会 常任理事 平成13年 4月～15年 3月 高島町体育協会 理事長 平成15年 4月～17年 3月 高島町体育協会 副会長 平成17年 4月～23年 3月 高島町体育協会 会長 平成17年 4月～23年 3月 山形県体育協会 評議員	高島町 体育協会	平成4年のべにばな国体に向けて成年男子サッカーの強化指定企業に選ばれたNECサッカー部の責任者として、選手強化・チーム作りに活躍。以来JFLで優勝に導き現在のモンテディオ山形の前身を築いた。現在は県柔道連盟副会長・置賜地区柔道連盟会長として、選手の育成強化に尽力している。高島町体育協会会長として、13の競技団体をまとめ、技術力の向上やジュニアの育成などの功績は大である。

(競技団体推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
3	たかはし けんいち 高橋 憲一	昭和53年 4月～平成 4年 3月 山形県水泳連盟 理事 平成 4年 4月～17年 3月 山形県水泳連盟 常任理事 平成17年 4月～現在 山形県水泳連盟 評議員 昭和53年 4月～平成 4年 3月 酒田水泳連盟 事務局長 平成 4年 4月～17年 3月 酒田水泳連盟 理事長 平成17年 4月～現在 酒田水泳連盟 副会長	山形県 水泳連盟	昭和53年以来、県水泳連盟の運営に貢献してこられた。昭和56年酒田市営プールの活用と水泳普及育成強化のため酒田水泳教室を立ち上げ、以降酒田地区の水泳普及強化に尽力され、平成16年光ヶ丘市営プールが移転新設された後も、そこを活動拠点としてクラブの発展に寄与された。山形県内では、水泳連盟が直接クラブを運営する形態が数多くあるが、その先駆となっている。
4	かがやま しげる 加賀山 茂	平成 2年 4月～13年 3月 山形陸上競技協会 理事 平成13年 4月～現在 山形陸上競技協会 副会長 平成 2年 4月～11年 3月 鶴岡市陸上競技協会 理事長 平成11年 4月～13年 3月 鶴岡市陸上競技協会 副会長 平成13年 4月～現在 鶴岡市陸上競技協会 会長	山形陸上 競技協会	昭和52年鶴岡市陸上競技協会の理事に就任、平成2年鶴岡市陸上競技協会理事長に就任とともに山形陸上競技協会理事に就任し、平成11年3月まで地区陸上競技・県陸上競技の発展に貢献した。同年4月からは鶴岡市陸上競技協会の副会長として、協会の運営に尽力し、さらに平成13年からは鶴岡市陸上競技協会会長に就任すると同時に山形陸上競技協会副会長に就任し、協会の発展に貢献した功績は大きい。
5	おおみや あきら 大宮 彰	昭和52年4月～平成5年3月 山形県バレーボール協会 幹事兼理事 平成 5年 4月～ 7年 3月 山形県バレーボール協会 事務局長 平成 7年 4月～11年 3月 山形県バレーボール協会 副理事長兼事務局長 平成11年 4月～現在 山形県バレーボール協会 副理事長	山形県 バレーボ ール協 会	昭和52年より県バレーボール協会の幹事・理事・事務局長・常任理事を歴任。この間、協会規約の整備並びに協会組織の体系化に尽力された。平成7年から副理事長に就任。11年から強化委員長を兼務、17年からは指導普及委員長を兼務して、6種別の県選抜チームの強化事業並びに「日体協」指導者資格取得事業に尽力され、本県バレーボール競技の振興・指導者育成に貢献された。その功績は極めて大である。
6	まるやま たかし 丸山 隆志	昭和63年4月～平成10年3月 山形県ソフトテニス連盟 常任理事 平成10年 4月～16年 3月 山形県ソフトテニス連盟 理事 平成16年 4月～20年 3月 山形県ソフトテニス連盟 副会長 平成21年 4月～現在 山形県小学生ソフトテニス連盟 会長	山形県 ソフトテ ニス連 盟	県ソフトテニス連盟の要職と共に、鶴岡ソフトテニス連盟のジュニア・中学生の指導、育成に携わり、全国中学生大会で個人、団体の全国優勝を成し遂げた中心的立場であり、我が県のレベルの高さを実証させた功績は大である。ジュニアの指導が中心となってからは、日夜を問わず指導にあたり、初めて始める子どもにも心の籠った指導と説得力のある指導は、他の指導者の模範にもなっている。また、鶴岡連盟会長として全国規模の大会誘致にも力を注いだ。
7	いとう きよし 伊藤 清志	昭和61年4月～平成14年3月 山形県卓球協会 事務局長・副理事長 平成14年 4月～22年 3月 山形県卓球協会 理事長 平成22年 4月～現在 山形県卓球協会 副会長	山形県 卓球協 会	氏は、以前から事務局として活躍、平成61年度からは12年間に渡り協会の要である事務局長を、更に平成14年度からは理事長を務められ、その間全国大会をはじめ東北大会等の大会運営全般において、県内外から高い評価を得ている。特に、平成4年の「べにばな国体」においては、準備から大会運営まで万般に渡り手腕を発揮され、卓球競技の総合優勝に大きく貢献した。また、「べにばな国体」の経験をもとに、平成11年全国スポレク、平成13年全国社会人、平成20年全国教職員、平成21年全国ラージン開催の中心的役割を担い、大成功に導いている。
8	しばや くにや 澁谷 邦彌	昭和63年 4月～平成元年3月 山形県野球連盟 評議員 平成元年 4月～17年 3月 山形県野球連盟 理事 平成17年 4月～現在 山形県野球連盟 副会長	山形県 野球連 盟	永年にわたり山形県野球界の発展に尽力し、自らも山形新聞社野球部の選手・監督として県の軟式野球界をリードしてきた。特に、本県野球界の選手はもとより、野球に関係する青少年の健全な心身の育成に貢献し、野球界の普及振興に挺身してきた。また、山形地区野球連盟会長として地区野球界をまとめるとともに、平成17年から県野球連盟副会長として本県野球界を牽引してきた。
9	こんの しげる 今野 滋	昭和60年4月～平成21年12月 山形県ソフトボール協会 理事 平成 6年 4月～11年12月 山形県ソフトボール協会 事務局長 平成 8年 1月～11年12月 東北ソフトボール協会 理事 平成22年 1月～現在 山形県ソフトボール協会 常務理事 平成22年 1月～現在 村山地区ソフトボール協会 理事長 平成23年 1月～現在 村山地区ソフトボール協会 会長	山形県 ソフトボ ール協 会	永年にわたり、地域におけるソフトボールの普及に率先して取り組まれるとともに、昭和53年以降は審判員としても精励され、県及び地区協会の運営に尽力されている。また、平成4年「輝きのべにばな大会」平成6年「ろうあ者全国体育大会」では中心的な役割を果たされ、平成9年「ねんりんピック山形大会」や平成11年「スポレクやまがた」では、事務局長として指導的な役割を担われるとともに、本会役員として運営・育成に精励され、本県ソフトボール競技の普及と振興に寄与された功績は誠に顕著である。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
10	いば つやこ 井場 つや子	昭和62年4月～平成4年3月 山形県レディースバドミントン連盟 事務局長 平成4年4月～6年3月 山形県レディースバドミントン連盟 理事長 平成7年4月～21年3月 山形県レディースバドミントン連盟 副会長 昭和62年4月～平成4年3月 山形地区レディースバドミントン連盟 事務局長 平成4年4月～6年3月 山形地区レディースバドミントン連盟 理事長 平成7年4月～21年3月 山形地区レディースバドミントン連盟 会長	山形県 バドミントン 協会	永年にわたり、山形県レディースバドミントン連盟の理事長・副会長として、また、山形地区レディースバドミントン連盟の理事長・会長として、バドミントンの普及・発展はもとより、山形地区、県、東北、全国大会の県内開催時は、率先して大会運営に携わり、協会員を取りまとめた功績は顕著である。
11	たきぐち いさお 滝口 功	平成元年4月～現在 山形県剣道連盟 理事 昭和63年4月～現在 山形県杖道部会 理事長 昭和49年4月～現在 山形県居合道部会 常任理事	山形県 剣道連盟	昭和63年に本県に杖道部会を発足させ、理事長として杖道の普及・発展に貢献。平成元年から、山形県剣道連盟の理事として剣道の発展に尽力され、更に平成12年から20年まで、全日本杖道大会の審判員を務め、全国レベルでの交流を図るなどの実績を挙げた。氏は、剣道(教士七段)・居合道(教士七段)・杖道(教士七段)の武道を極め、自らも鍛錬されている。
12	しばた はじめ 芝田 肇	平成元年4月～21年3月 山形県山岳連盟 理事 平成元年4月～21年3月 山形県山岳連盟 自然保護委員長	山形県 山岳連盟	本県山岳連盟の理事及び自然保護委員長として長年務められ、平成11年に本県で開催された「日本山岳協会自然保護全国委員会」を成功させた。また、八幡山岳会会長として遭難救助を指揮し、自ら救助隊員として早期救助に一役を担った。地域山岳会及び県山岳連盟において、加盟各団体に対する熱心な自然保護活動の必要性を指導される姿勢は、高く評価されている。現在も地域山岳会の指導者・鳥海国定公園管理人として、登山活動・救助活動に専念されている。
13	ほしの けんじ 星野 憲治	昭和52年4月～22年3月 山形県合気道連盟 理事長	山形県 合気道連盟	第41回を数える山形県合気道演武大会の実行委員長として活躍されるとともに、30数年の長きにわたり、県合気道連盟の理事長として合気道の普及・発展に寄与された。
14	はちや まさゆき 蜂屋 雅之	平成5年4月～23年5月 山形県エアロビック協会 会長	山形県 エアロビック 協会	県エアロビック協会設立以来、平成23年5月の退任まで、県エアロビック協会会長として尽力された。特に、平成11年全国スポーツレクリエーション祭山形大会開催に貢献された。また、山形県エアロビック選手権大会の創設運営と県エアロビック愛好者の拡大に寄与された。
15	おおた ひでお 太田 英雄	平成5年4月～7年3月 山形県グラウンド・ゴルフ協会 事務局長 平成7年4月～20年3月 山形県グラウンド・ゴルフ協会 会長 平成20年4月～現在 山形県グラウンド・ゴルフ協会 顧問	山形県 グラウンド・ ゴルフ協会	県グラウンド・ゴルフ協会において、平成5年より現在まで、17年間の長きにわたり会長等の役職に就き、生涯スポーツとしてのグラウンド・ゴルフの普及・発展に尽力された。特に、協会の草創期より、その円滑な運営・拡充強化及び会員増に努め、県民の特に高齢者の心身の健康増進及び親睦・交流に貢献された功績は大きい。

平成22年度 功労賞(ライオンズスポーツ賞)受賞者

(競技団体推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
1	つばき ひろし 椿 央	平成22年度 全日本距離別スピードスケート選手権大会 男子1500m 優勝(小田卓朗) 平成22年度 JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会 男子1500m・3000m・総合 優勝(小田卓朗) 平成22年度 第60回全国高等学校スケート選手権大会 男子1000m 優勝(小田卓朗)	山形県 スケート連盟	県スケート連盟強化部長並びに県立山形中央高校スケート部監督として、長年にわたり選手強化に尽力されている。本県スピードスケート界の競技力向上への道を大きく開拓し続けている功績は顕著である。特に、小田卓朗選手が全日本距離別スピードスケート選手権大会の1500mで、大学生や社会人を抑えての高校生としては史上初となる歴史的な優勝を果たした実績は偉大である。
2	よした ゆきひろ 吉田 幸宏	平成12年度 第23回全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季水泳競技大会水球競技(高校女子の部) 優勝 平成13年度 第24回全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季水泳競技大会水球競技(高校女子の部) 優勝 平成22年度 第3回全日本ユース(U15)水球競技選手権大会 ～桃太郎カップ～ 女子の部 優勝	山形県 水泳連盟	16年間山形工業高校水球部ヘッドコーチとして意欲的に指導に携わり、女子チームを3回全国優勝に導いた。また、山形SHARKS(社会人チーム)を創設し、選手としても国内トップリーグにおいて活躍した。山形県の水球一貫指導体制の一役を担うことは勿論のこと、社会人としての活動は全国でも高い評価を得ている。全日本代表として活躍している長沼敦選手、三浦里佳子選手をはじめ荒井桃子選手、曲山紫乃選手、矢作美香選手などの育成コーチである。
3	きむら ふみひろ 木村 文浩	平成22年度 全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会 K-2 500m 優勝 阿部 輝、荒木琢磨(谷地高校) 平成22年度 全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会 C-4 200m 優勝 渡辺慎也、早坂卓也、石川駿、上村一馬(谷地高校)	山形県 カヌー協会	氏は、20年以上カヌー指導に関わり、多くの選手を全国優勝に導いてきた。近代的なトレーニングに、現役時代から培った精神面の指導を取り入れた独自の指導を確立し現在に至っている。氏の日々研鑽は他の模範であり、例年の全国優勝や入賞実績をみるに、県スポーツ界への貢献は大である。なお、カナディアン・フオア種目の優勝は、本県初の快挙である。
4	やまだ かがり 山田 かがり	平成22年度 全日本実業団バスケットボール競技大会 優勝 平成22年度 第6回全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝 平成22年度 高松宮記念杯第43回全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝	山形県 バスケットボール 協会	平成20年から山形銀行バスケットボール部「ライヤーズ」のヘッドコーチに就任し、毎年全日本実業団及び社会人大会での優勝に導いている。今年度も主要大会での優勝3冠を勝ち取り、全日本社会人選手権・全日本実業団選手権においては3連覇を成し遂げている功績は偉大である。また、全日本総合バスケットボール選手権では、日本最高峰Wリーグの日立ハイテックに競り勝ち、チーム史上初のベスト8入りを果たした。他にも、本県でのバスケットボール競技の普及活動と競技力向上に積極的に取り組んでいる。